



燕岳登山のベース 標高 1,462m

他人の体調不良の話など面白くありませんが、まだまだ若い方でも、ご両親の介護やご自分がいずれ高齢者になられた時にでも、何かしらのご参考になることがあるかも知れないと思い、今回は私の初入院の様子を書かせて頂きます。9 年程前に「築理会 H P のどこかは毎月更新されているように寄稿する」と宣言して始めたこのページですが、月末までに別のテーマで原稿をまとめる余力はありませんので、これで 9 月分とさせていただきます。もっと多数の方の寄稿が始まっていれば、こんな時はスキップさせて頂けるのですが……。上の写真は今回のテーマとは無関係で、長野県中房温泉です（道草ギャラリーその 92 にも記載）。先日 8 月 8 日土砂災害で県道の橋が流され、燕岳（つばくろだけ）の山小屋などと合わせて数百名の孤立事故がありました。道路の暫定開通も 8 月 22 日になるとのこと、麓の穂高温泉郷の引湯管も破断したそうです。2003 年と 2005 年に行ったことがあるところで、「また行けるようになるといいな」との思いで、写真を。

人生初の入院生活を経験しています。この歳になると、未経験の体調になることも多く、初めての検査や処置を受けることも増えてきましたが、これまでは全て日帰りでした。昨年の「白内障手術」も日帰りで、50 歳の頃夜中に突然の痛みで救急車のお世話になったこともありましたが、未明の内に「結石」が落ちてしまい、朝は普通に出勤。幼児の頃、結構たくさん病気に罹りました。正確には記憶していませんので、「既往症」を書くときも書き切れませんが、当時は自宅療養が当たり前の時代でしたので、初の入院になりました。77 歳の誕生日を、病室で迎えました。

7 月 31 日に左胸前後の痛みと食欲低下、8 月 2 日になって発熱。翌 3 日近所の内科クリニック発熱外来に電話相談して、設備がある病院へ行ったほうが良いと勧められて近くの T K 病院へ。内科ではなく救急外来に回され、コロナ・インフルエンザ検査から、血液検査、心電図や C T 等を経て、「肺化膿症」と診断され、すぐに入院・手術できる病院を探して頂いて、C T 画像も持参して隣駅の N T N 病院へ入院。溜まった膿が肺を圧迫して呼吸を苦しめているとのこと。息苦しさは高山病に近いかも知れません。レントゲンも撮って、その夜に胸に管を付ける手術をして膿の吸引と、1 日 4 回抗生剤点滴を開始しました。膿の吸引が始まってしばらくで、胸の痛みは軽減しました。関係して頂いた方々のお陰により、1 日でここまで進展したことは、本当に幸運でした。1 日中、車を運転して付き添ってくれ、入院の対応もしてくれた妻にも感謝です。少し掛け違えば「痛み止めを飲んで様子をみてください」で、原因究明・治療開始が数日遅れたかも知れません。なお、コロナ・インフルエンザ検査はどちらも「陰性」で、未だにウイルスから逃げ続けられています。

ここの病院はそれほど新しい建物ではありませんが、ベッドや周りの機能も大変快適です。管を付ける手術も病室のベッドで受けました。血圧・体温・血中酸素濃度の測定、点滴、採血、食事・薬の配付等々、担当者は、日勤・夜勤でも交替し、次々違う方が顔を見せるので、なかなか覚えられません。全員マスクも付けています。名札も付けていますが、「キラ

キラネーム」の方も多数。数日経って同じ方だと認識したこともありましたが、2週間経っても新しい顔の方もいます。初めに「診療参加型臨床実習ないし見学型臨床実習に協力する」に署名していることも影響しているかも知れません。入院時病室まで車椅子を初体験しました。その後吸引機を伴っての院内移動でも車椅子の乗客でした。胸の管は3日半で外されました。5日目にはシャワーも回って来ました。スマホは持込可（モバイルバッテリーは不可）でしたが、パソコンの持込には主治医の了解が必要とのことで、確認が取れたのは3日目でした。Wi-Fiはなく、スマホも電波状況が良くありません。パソコンと共にポケット Wi-Fi を持込んで、どちらもまともに機能するようになりました。突然の入院でしたので、直後の仕事や旅行のキャンセル等にあたふたしました。12年目になっている木造耐火講習会の講師も、ようやく今回ばかりは真剣に後任者を探して頂けそうです。

胸に穴をあけて管を取付け、またそれを取外す手術も非常にうまくやって頂け、その傷による痛みは全くありませんでした。入院時には、また管を付けるかそれ以上の処置が必要になる可能性もあるとのことでした。点滴は最低でも2週間続ける必要があるそうで、初めての入院を楽しむしかありません。

入院中の楽しみのひとつ食事は、朝8時過ぎ、昼12時過ぎ、夕18時過ぎです。区分が「一般常食米飯170g」となっています。3・4日先からの献立で1週間分1日毎に、朝食のみ米飯かパンかの選択ができます。塩分等は確実にコントロールされており、添付されることがある小袋の減塩ドレッシングや僅かな量でも酢の物のメニューは貴重です。非常に薄味でも確かに味噌煮と分かるサバもありました。初めは、体調が悪いとなかなか食べきれないような薄味と感じ「体調判断のバロメーターか」とも思いました。お茶も最初の1杯限りです。数日後からお茶のペットボトルを常備しています。慣れか体調変化が分かりませんが、2日目の夕食からはほぼ完食しています。自分に余裕が出て来ると、いろいろな制約がある中で料理の材料・味・量等に工夫調整があるなと感じるようになりました。毎回運ばれてくる食事を見て、何故か少し前のNHKドラマ「ムショラン三ツ星」を思い出していました。2週間で3kg程体重が減りました。最近はBMIも普通体重の上限ぎりぎりになっていましたので、少しは余力が出て退院できるかと思われます。食事の写真を出せたらと思いましたが、「院内の写真と映像の撮影、及びブログ等への掲載禁止」とされています。

膿の吸引機のゲージが10Hpaと表示されていたと記憶しています。100分の1気圧程度の負圧で吸引していたようでした。蓄電池も入っていて、トイレにはコンセントのプラグを外して引いて行き、ベッドに戻ったらまたプラグを挿しました。点滴は毎日4回ですから、相当な回数になりました。0時・6時・12時・18時から1時間以内程度で点滴開始。食事時間と重複することにもなります。腕に24時間、静脈点滴用の注射針、20cm程の管とコックが付いたままです。シャワーを浴びるときは、その部分の完璧な防水被覆をしてくれます。この注射針も5日で付け替えます。毎回看護師の方が交代で現れ、入院時に付けたリストバンドのバーコード読取と患者本人の氏名発声で本人確認。これ以外でも「〇〇さん、お名前教えてください？」という普通の世の中では不思議な会話が、院内で繰返し聞こえていました。私の場合は100ccの点滴液（1時間程度で終わることを狙っている）をセットしていくのですが、1時間弱のこともあれば、1時間半から2時間程度が多く、最長は2時間半掛かりました。点滴液の容器と腕の高低差や、患者の血圧でも変わると聞きました。点滴液が腕の近くで粘度が増してゆっくりになることもあるそうですが、毎回点滴の前後に、注射器に入った生理食塩水で腕についている部分の管の導通テストをしていますので、それでも差が出るのでしょうか。ベッドの手摺の上に腕を載せてセットしてもらって、点滴が始まってから腕をベッドの床に降ろし、30cm程高低差を大きくして、時間短縮を狙ったこともあります。点滴始めより後になるとテンポが遅くなることが多いのですが、そもそもスタート時のテンポが毎回違います。看護師の方がそれぞれの感覚でセットしているようで、時計や何か小道具で確認している方もありました。看護師の方と「心臓マッサージのように、何か皆さんが良く知っている曲でテンポ確認ができるといいですね」と話しました。中には途中で何回か確認にきてテンポを微調整してくれた方もあります。ネットで点滴の1滴が約0.05mlとの記載を見付けました。20滴で1cc、100ccなら2,000滴ということになります。テンポのみでなく、注射器での導通テストやその時の気泡に対する配慮等、細かなやり方には看護師個人の性格も現れているように思いました（マニュアルの許容範囲内なのだと思いますが）。

ここの面会時間は、午後に 2 時間設定されています。さらに患者 1 名につき面会者 2 名 30 分以内と制約されています。小学生以下の面会は不可です。コロナ期に病院の面会は絞られましたが、今でもこのような状態です。昔の病院のように面会時間になると「ドット人が増えて賑やかになる」ということはありません。昔は院内の喫茶店やレストランで面会という例もありました。談話室なども昔に比べると小さくなっているように思います。面会時間は我家との貴重な物資補給路になっています。面会に来られない小学生の孫から、誕生日祝いの折り紙作品や千羽鶴も届きました。妻や子・孫等とは LINE で繋がっていますので、必要なことはいつでも連絡可能です。元気な時より使用頻度が増しています。夜中の点滴もあり、早朝 5 時頃に採血の日もありで、日中にうとうとしていて既読が遅くなって余計な心配をさせてしまうこともありました。自分の親世代の入院時より、情報交換は随分楽になっています。

1 日で吸引開始まで行けたことが幸運だったと書きました。また発症が少し遅れていれば、旅行を計画していましたので、旅先で大慌てとなっていたかも知れません。どこかの大統領の施策には、未だに納得賛同できることが見付けられていませんが、もしかすると今回ばかりは感謝しなければならないかも知れません。昨年度団地の管理組合理事会で時間を拘束されていたことが 3 月に終わり、さてそろそろコロナ期以来遠のいていた海外旅行でもと考えていました。その矢先に、既に 5 年目に入っているもう一人の厄介な大統領に加えて、結局世界中を大混乱に落とし入れてくれましたので、海外旅行は少し様子見かなと決断せずにいました。これが無ければ、気圧の低い飛行機や標高が高い高地などどこか海外で具合が悪くなっていたかも知れません。この原稿も書けなかったかも知れません。

3〜4 日毎の血液検査で、CRP 値（感染や炎症があると急激に上昇、正常値は 0.14mg/dL 以下。当病院に私の昔の記録が残っていた 2024 年 2 月は 0.09）が、3 日に 25.38 もあったものが、20 日 2.59 まで下がりました。レントゲン画像も合せて判断され、幸いにもこれで通院治療に移行できることになりました。主治医の先生から、CRP 値変化のグラフまで使って、説明を頂きました。的確な治療をして頂いたことに感謝すると共に、今後も症状のぶり返しがなくこのまま快方へ向かうことを期待したいものです。

今回の原稿は、病室のベッド上でほとんどが点滴を受けながら、まだ症状や体調がどう変化するのかが不透明だった時期から書いたものです。いつも以上に変な重複や矛盾がありましたら、ご容赦ください。通院治療になっても完治と体力回復を目指し、今のところ来月も寄稿を続ける挑戦をしたい、「六文銭」は持ち歩かず、可能な限り踏ん張りと思っていますが、是非、皆さんも気楽に寄稿して頂いて、たくさんの方が寄稿するギャラリーになればと思います。

（写真撮影 2005.10.31）

<Google マップ参照 >

URL は、下の「PDF はこちら」に入り、アンダーラインをクリックしてください。

中房温泉

<https://www.google.co.jp/maps/@36.3951113,137.7451384,14.45z>

（2026 年 9 月分として）

（2026.08.20）